

前沢明峰支援学校

研究テーマ

「児童生徒がより主体的に学ぶ姿を目指して
～新学習指導要領に向けた授業の見直し～」
(3年次研究の2年目)

1 全体研究

(1) 研究の目的

これまでの本校の研究成果や新学習指導要領の内容を反映し、児童生徒の主体的な姿を明確にした授業改善に取り組み、児童生徒がより主体的に学ぶことができる授業を目指す。

(2) 内容及び方法

① 授業研究の推進

- ・主体的な学びの姿を目指した授業改善
- ・目標・手立て・評価を明確にした授業づくり

② 授業改善の方法および授業内容の共有、協議

- ・第1回全体研究会の開催(4月)
- ・授業研究会の開催(7月、9月、10月)
- ・第2回全体研究会の開催(12月)

助言者：岩手県立総合教育センター

研修指導主事 阿部 真弓 氏

③ 新学習指導要領の内容の理解の促進と授業づくり

- ・新学習指導要領を反映した授業づくり
- ・講演会の開催
- ・情報誌の発行(不定期)

2 各学部の研究の主な内容と方法

(1) 小学部

① 授業づくりシート(単元計画シート、指導略案、授業記録シート)を活用した授業実践を行い、目標、手立て、関わる教科で育成を目指す資質・能力を明らかにする。PDCAサイクルによる授業改善を行う。

② 学団ごとに実践報告・協議を行い、実践内容を共有して次の単元や他の児童への指導に活かす。学部全体の実践内容を共有する。

③ 児童の主体性を引き出すために有効だった手立てや今後の課題について確認する。

(2) 中学部

① 生徒が主体となって進めることができる授業

づくりの検討・実践を行う。授業づくりシートの活用により生徒の主体的な姿を引き出す目標・内容・手立ての工夫・評価について検討する。

② 全校又は学部授業研において意見交換を行い、授業の成果を共有すると共に課題を明確にして授業改善に役立てる。

③ 生徒が主体となって取り組むことができる授業のあり方を整理し職員間の共通理解を進める。有効だった活動や手立てをまとめ、授業改善に有効な資料を作成する。課題を明確にし、次年度の研究につなげる。

(3) 高等部

① 新学習指導要領の理解の促進

② 授業研究

- ・作業班毎に一週間程度の授業参観週間を設ける。
- ・各作業班から抽出したモデルとなる生徒を中心に参観(専用の参観シートを活用)し、対象生徒の主体性の変容等について協議する。
- ・目標・手立て・評価を意識した授業づくりを実践し、PDCAサイクルによる授業改善を行う。

(4) 寄宿舎

① 実態把握シートとプランニングシートを活用した個別の生活支援計画を作成する。目的と手立て・評価を一体とした取組を目指して棟協議を行い、PDCAサイクルによる改善を進める。

② 寄宿舎研究会で各棟の実践事例について協議を行い、改善と共有を図る。

③ それぞれの実践について評価を行い、成果と課題を明確にする。実態把握シート、プランニングシート、個別の生活支援計画の様式の見直しを行う。

3 講演会

演題：「知的障害教育の『特長』を活かした『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業実践」

講師：筑波大学 人間系障害科学域
准教授 米田 宏樹 氏

期日：令和元年7月31日(水)

参加者：105名